



## 地域ブロック情報

日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今年度から、各地域ブロックの活動について順次ご紹介していきます。

今号は関西地域ブロックと中国四国地域ブロックと九州地域ブロックをとりあげます。

### 関西地域ブロック から

関西地域ブロック担当理事

松端 克文(桃山学院大学)

現在の関西社会福祉学会は1998年11月に設立されたのですが、2003年に全国学会の関西部会と合同して運営していくことになり、今日では関西地域ブロックとほぼ一体的に運営されています。

関西社会福祉学会では、毎年度末に年次大会を開催しています。大会の午前中には、自由研究発表の枠を設けており、毎年8名～12名程度の発表が行われています。また、関西独自の活動として、2004年5月より年3回のペースで「若手研究者・院生情報交換会」を継続して開催し、本年2月に30回目の研究会が開催されます。この研究会は、関西社会福祉学会の理事・監事が中心となってそれぞれの研究テーマに即して、主として院生や若手研究者を対象として研究会を開催するのですが、うち1回は大学院生がテーマや人選をする院生企画の研究会にしています。また、毎年原則として2回「ニュースレター」を発行しています。

今後の取り組みとしては、現在、2014年度末に関西社会福祉学会・日本社会福祉学会関西地域ブロックとして機関誌を発行する方向で検討を進めています。これまで年次大会で自由研究発表の枠を設け、その内容をニュースレターで紹介したり、上記の研究会を実施してきましたが、こうした取り組みに加えて機関誌を発行することで、若手研究者の発表の機会をつくるとともに、関西における社会福祉研究の質の向上を図っていきたく考えています。

関西では1954年に全国学会が設立される以前から、組織的な研究活動が行われてきたという歴史があり、1950年には全国学会に先駆けて「関西社会福祉学会」が設立されています。こうした活動を通じて、著名な研究者や実践者を多く輩出してきました。研究上の多様な立場は尊重されるべきですが、あえて関西の特徴をあげれば、「時の政策動向に翻弄されることなく、一定の距離をおいて、在野のスタンスを保」ってきたことにあるといえます。「関西の歴史と風土に根ざした社会福祉研究と実践の発展に資すること」(井岡勉「関西社会福祉学会のアイデンティティ」『関西社会福祉学会ニュースレター』2006年度1号より)をミッションのひとつとして、関西発で社会福祉学会を盛り上げていきたいと思えます。

## 中国四国地域ブロック から

中国四国地域ブロック担当理事

横山 正博(山口県立大学)

中国・四国ブロックは、会員数約 440 名、会員総数の約 8.5%を占めています。9 県ありますが、会員は岡山県と広島県に集中し、約 50%を占めています。最も少ないのが鳥取県で会員数は一桁と推測されます。交通移動も、松江高知間は 5 時間以上かかります。

一方、ご承知のように、高齢化先進地域でもあります。全国高齢化率 top5 に島根県、高知県、山口県が入っています。中国・四国地域の社会福祉の課題は、やはり高齢化・過疎化が第一にあげられます。中国・四国ブロックとして、遅ればせながら、高齢化・過疎化に関する研究プロジェクトを推進していこうという提案も部会委員会で提案されたところですが、まだ構想の段階ですが、9 県という広範囲を活かし、各県の状況を比較しながら、高齢化・過疎化の課題を解いていく研究活動を会員連携により推進していきたいと考えています。

かねてより、特に若手、あるいは実践現場の会員の研究水準の向上の支援策の検討をしてきたところです。その一環として、2011 年度にブロック機関誌「中国・四国社会福祉研究」(電子ジャーナル)を刊行することができました。今年度は第 3 号の刊行予定です。投稿数も徐々に増えてきました。本編については、一会員の好意により開設しています中国・四国ブロックのホームページをご覧ください。

(<http://www.socialwork-jp.com/csssw/index.html>)

課題は、なかなか査読適任者がいないことです。また、今年度から、大学院生、あるいは実践現場の会員を対象として、研究方法を身につけ、お互いの研究から学びあうワークショップを来る 3 月に企画することとなりました。

最後に、中国・四国ブロックの活動で最も大切にしていきたいと考えているのは、年に 1 回会員が参集する機会であるブロック大会です。今年度で 45 回(徳島大会)を迎えました。毎回、100 名以上の会員が集まり、研究報告も 15 題程度あります。この伝統あるブロック大会を足場として、さらに会員が中国・四国地域の社会福祉の課題を見つめ、会員連携による研究活動を行い、中国・四国地域ならではの情報発信をしてきたいと考えています。

## 九州地域ブロック から

九州地域ブロック担当理事

鬼崎 信好(久留米大学)

2013(平成 25)年 3 月末現在、日本社会福祉学会の会員数は 5212 名です。その内、九州ブロック所属の会員は 554 名(10.6%)となっています。この数字は、社会福祉学をメジャーとする仲間が全国でも九州ブロックでも増えてきている証しと理解することができます。ここで私事を少し記すことをお許し下さい。原稿を書いておりました、今から 37 年前

の3月下旬の出来事を思い出しました。当時、私は佐賀県にあります西九州大学に就職する機会を得ることができ、赴任するために京都駅から新幹線に乗りました。丁度、観光シーズンでもありましたので、指定席を確保しました。指定のシートに行きましたところ、偶然に高名な先生と隣り合わせになりました。先生のお話しでは、日頃の家族サービス不足解消を兼ねて、小学生の息子を連れて山口県に講演に行かれる途中、とのことでありました。車中では、いろいろなお話ができ感激をしたことを思い出しました。その年の5月に「九州社会福祉研究会」が大学で開催されました。参加人数は30人ほどで、アットホーム的な研究会でした。当時は、社会福祉の現場と大学等が共同で社会福祉について勉強する機会(現場と地続きの理論を打ち出すことが必要等)を設けるとの判断から、「日本社会福祉学会九州ブロック」の看板を前面に出さずに開くとの考えが強かったようです。また、当時は、福祉系大学は1校、短期大学1校でした。

その後、いろいろな議論が重ねられ、今日では「日本社会福祉学会九州ブロック主催」の看板を掲げて、持ち回りで研究大会を開いてきております。今年の6月28日、29日の両日には「第55回研究大会」を鹿児島国際大学が担当校になり開催する予定になっております。次いで、2015(平成27)年度は九州保健福祉大学で、2016(平成28)年度は長崎ウエスレヤン大学で研究大会を開催する予定となっております。

九州ブロックは大学間の交通アクセスがあまり良くありませんので、日常的な交流の機会は多くありませんので、それを補うために研究大会には力を入れております。また、『九州社会福祉学』を10年前から発行し、九州ブロックに所属する会員の発表の機会の一助としております(2013年度末に10号発行予定であります)。また、九州ブロックの184名の会員有志で『現代社会福祉用語辞典』も出版致しました。今後も頑張っていきたいと考えています。